

豊かさを実感する

町民の意見や要望

平成2・3・4年度に成人式を迎えた人は、それぞれ156・169・182人となっていますが、最近の出生数は平成2・3・4年とも90人を割込んでいます。このような状態が続くと、ますます高齢化が進むので、何としてもこれに歯止めをかけることが必要になってきています。

そこで、町は将来を展望

し、町民のみなさんに「豊かさを実感するわがふる里」と胸をはれる町をつくるため、現在、基礎的社会的資本の整備を急いでいます。その中でも特に、基幹道路網の整備、雇用の場の確保、文化・スポーツ施設の整備、老人福祉対策の4つを急務と考え、種々の事業を展開しています。

町道0103号線の道路改良

車社会という現実を踏まえた場合、どうしても避けられないのが道路問題です。町は現在、町の南北を縦断する基幹道路を作ることになっています。そこで、町道0103号線（小田部～八石田）を計画的に道路改良工事を行い、県道八日市場八街線と接続させ、国道296号線へ抜けられるよう

にします。また、あけぼの橋から南下させる道路についても、宮川沼を通りぬけて作間内まで延ばします。そして、将来的には、県道飯岡片貝線と接続させるように進めています。更に、白浜地区でも尾垂地先を縦断し、県道飯岡一宮線と県道飯岡片貝線とを結ぶ主要道路の新設改良工事が行われています。

第2期ひかり工業団地の設置

若者の定着化と併せ、兼業化の進む農家世帯に雇用の場の確保を図る必要があります。そこで、現在篠本の地27haに第2期ひかり工

業団地の設置を進めています。この団地は、県の企業庁により進められ、平成8年度に完成する予定です。企業が進出することにより、

地元で多くの町民のみなさんの働く場所の確保ができ、かならず大きなメリットが生ずると思われるからです。また、町も大切な財源になる企業からの税収を期待しています。更に、若者の定住ということ考えた場合は、住宅団地が必要になってきます。そこで、海老川地先（芝崎）を活用した住宅団地の建設を県へ要望しています。

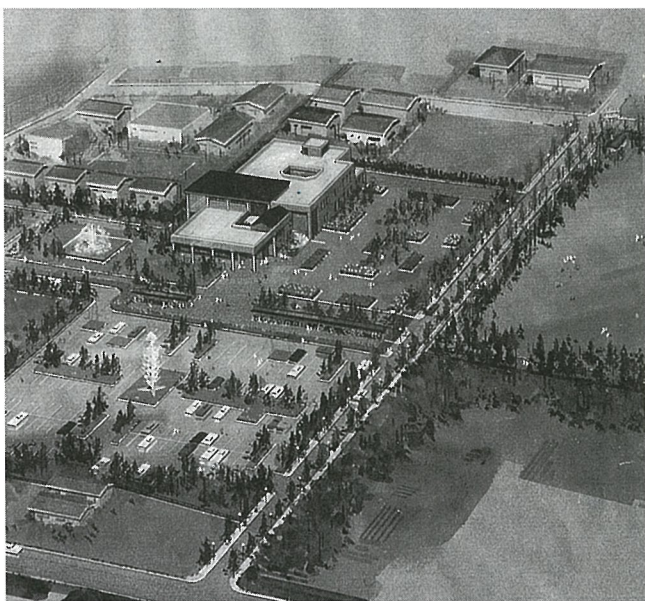
老人福祉施設を建設

町では、高齢化社会に対応するための「光町老人保健福祉計画」を今年度中に策定し、その計画に基づききめ細かに種々の対策を行っていきます。また、その対策の一つとして、東陽病院南側の土地18,000㎡を確保し、ここに東陽病院を構成する横芝町・野栄町・光町の3町で共同して九十九里ホーム病院を誘致し、平成7年度に老人福祉施設を設置します。そして東陽病院と連携を取りながら、この地域を医療及び老人福祉の拠点とする実施計画を描いています。

(仮称)文化・スポーツの森公園を建設

今後ますます増大する余暇時間の到来に伴い、スポーツレクリエーション施設や文化活動施設などの生涯学習の拠点づくりを行う必要があります。

そこで町は、来年の町制施行40周年に合わせて(仮称)文化・スポーツの森公園と(仮称)複合スポーツ施設をオープンします。(仮称)文化・スポーツの森公園は、役場東側の36,000㎡の敷地を活用し、図書館・多目的芝生広場・公園などを設置します。(仮称)複合スポーツ施設は、長塚地先の21,840㎡の敷地を活用し、屋内温水プール・テニスコート・芝生広場などを設置します。また、近隣に先がけて行っている女性フォーラムや女性の翼などのソフト事業も積極的に行っていきまが、今後も大勢の町民のみなさんの参加と施設の有効活用が期待されるところです。



来年のオープンが待ちどおしい(仮称)文化・スポーツの森公園